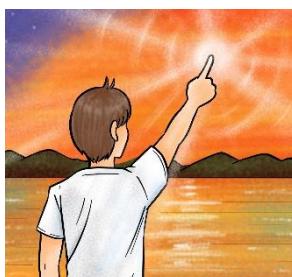


明けましておめでとうございます。今年は60年に一度の丙午（ひのえうま）。易経では「陽の気が極まる年」とされています。しかし、陽極まれば陰生ず。光が満ちるとき、影もまた濃くなる。変化の激しい時代だからこそ明暗を見極める目を持ちながら、大胆に前へ進みたいものです。今年も実り多き一年となりますように！

知つとこ！「税」のマメ知識100

今月のマメ知識：【復興特別所得税をめぐる議論】

復興特別所得税は、東日本大震災からの復興財源確保を目的として、2013年1月1日から25年間、基準所得税額に2.1%を乗じた金額が課される制度です。例えば、所得税額が10000円の場合、210円が復興特別



所得税として加算されます。財務省の試算では、夫婦と子ども2人の世帯で年収500万円なら年約1600円、年収1000万円なら年約14000円の負担増となっています。また2014年度から10年間は、個人住民税も均等割が年額1000円ほど引き上げられていました。2022年の防衛費増額議論において、この復興特別所得税の1%を防衛費に転用する案が物議を醸しました。最終的な税制改正大綱では、復興特別所得税を1%引き下げる一方で新たな付加税を創設し、形式的に防衛費への転用を避けた内容となりました。ただし当初の課税期間を最長13年程度延長することとし、引き下げ前と変わらぬ復興財源を確保しました。復興と防衛、2つの重大なる目的をめぐり国民的議論が続いています。

光を放つ 名言コラム

【書いたものより語ったことに真実】

90代の今も第一線で活躍する作家の五木寛之氏。対話集『心が挫けそうになった日に』の中で「本人が書いたものよりは、本人の語ったこと、あるいは本人はこういうふうに振る舞っていたという他人の記録のほうが、実は真実をより深く伝えていているのではないかだろうか」と語っています。書くときは考えを矯正したり飾って書いたりするが、話したことは動かすことのできない事実として残るからだそうです。五木氏が挙げていたのは親鸞など歴史上の偉人の例ですが、今を生きる私たちにも同じようなことが言えそうです。多くの人がおそらく「自分から見た自分」が本当の自分だと考えていますが、文章を書くまでもなく、頭の中でいろいろ考えて本音をごまかしたりすることができます。そしてごまかせない言葉や振る舞いに本音、本心がにじみ出る。他人のほうが余分な情報、感情がないだけによく見えるのでしょうか。

世界の偉人伝

今月の偉人：【千利休】

千利休は「侘び茶」を大成させた、戦国時代の茶人です。大阪堺の裕福な魚問屋に生まれ、16歳で茶の道に入り、最初の茶会を23歳の若さでを成功させました。商人として財を成すと、茶の湯を積極的に政治に利用していた織田信長、豊臣秀吉の茶頭を担いました。天下統一の参謀として影響力を極めますが、秀吉の怒りを買い自害しました。茶の湯の心得「和敬清寂」は、調和と清らかさを示した、現代人にも通じる人生哲学です。簡素の中に精神的な美意識を見出した人だったのです。

炊きたての熱々ご飯でおにぎりを作るときはクッキングシートで包んでから握ると直接、手に熱が伝わりにくくなり、やけどの心配が減ります。また通気性が高いためラップで包むより蒸れにくく、ご飯がベタつきにくい点もおすすめです。ただし乾燥にはご注意を。

才人の言葉

あたかも一万年も
生ききるかのようにな
行動するな

第16代ローマ皇帝であるマルクス・アウレリウスの言葉。長生きすることを期待してのんびり行動するのではなく、常に死を意識して「今」を大切に生きることだ。

振り向けば あそこにも 商売のヒント

今月の商売のヒント：【「異端の一手」が未来を拓く】

昭和から平成初期のモノづくりを支えた技術者の情熱に今、再び注目が集まっています。例えば、昨年のNHK「新プロジェクトX」で特集された初代プレイステーション（P S）誕生秘話は、まさに技術者たちの信念が逆境を打ち破った劇的な挑戦の歴史です。

1990年代初頭「ゲームは2Dが主流」という時代に、ソニーの技術者だった久夛良木（くたらぎ）健氏らは、映画のようなリアルタイム3DCGを家庭で実現するという無謀な夢を追いました。任天堂との共同開発計画が土壇場で白紙撤回され、社内外から「ソニーのゲーム業界進出は不可能」と冷遇され、巨大組織の中で異端児扱いされても「未来は3Dにある」という信念を貫き、リアルタイム3DCGという誰も成し遂げていなかった未来を信じました。その信念が、それまで子ども向けだったゲームを、世界を牽引するエンタメの王道へと押し上げ、今日のゲーム産業の礎を築きました。P S誕生秘話は、組織の壁と世間の常識に立ち向かい、未来への「一手」を信じ抜いた技術者魂の記録でもあるのです。P S発売から約30年が経った今、私たちがこの歴史から問われていること



は何でしょう。異端の技術者たちが常識に挑んだように、私たちも日々の生活や仕事で「無謀」と笑われるかもしれない未来への一手を打てるかどうか。現状維持という名の殻を破って新たな道を切り開く勇気が持てるかどうか。逆境を力に変えていけるだけの強い信念があるかどうか。今までの成功体験に縛られず、軽やかに、けれどひたむきに、そして大胆に「異端の一手」を打ち続けたいと思う新年です。



今月のトピック：【北向き住宅】

北向き住宅への関心が高まっています。夏は強い日差しに日中カーテンを開けられず、熱帯夜で暑さがこもる南向きの部屋に対し、北向きなら比較的過ごしやすく、電気代も節約できます。冬の暗さや寒さは断熱性の向上やインテリアの工夫で回避が可能。「日当たり良好、南向き」を好条件とする不動産業界の常識を、酷暑の夏が覆しています。



トナリの本棚

【ザ・ロイヤルファミリー】

山本周五郎賞とJRA賞馬事文化賞を受賞した早見和真の小説。馬主とその家族の波乱に満ちた20年間の物語です。最後のページに胸が熱くなる一冊です。



元氣と氣づきを提供する 東京都豊島区池袋の佐藤茂税理士事務所

豊島区池袋2-60-7 ルート池袋第3ビル4階

電話：03-3988-8820 FAX：03-3988-8824

<http://www.satousigeru.jp>